

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	清水 裕之（名古屋大学 名誉教授）	令和7年2月17日（月） 10時～	都市計画課	碧南駅周辺地区 都市再生整備計画 事業評価委員会設置要領	独自に設置
その他の委員	新川 清司（碧南市連絡委員幹事会 代表幹事） 岩田 義之（公益社団法人愛知建築士会碧南支部 支部長） 加藤 榮治（つながりのわ 日進みらいの会 会長） 神谷 葉子（碧南市女性団体連絡協議会 会長） 横山 茂（碧南市商店街連盟 会長）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が実施されたことが確認された。
	成果の評価	・評価結果については了承された。
	実施過程の評価	・大浜てらまちウォーキングは年1回の開催であるため、今後は単発的でない取組みが望まれるとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・指標2碧南レールパークの利用者数は目標達成はしているが、引き続き、碧南レールパーク全体の利用向上に向けて取り組むべきとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・案はホームページや広報により、市民に対して適切に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・商店街の解散や合併等が進んでいるため、今後は（都）碧南駅前線の整備に合わせて、商業や観光等の活性化方策について、商店街、まちづくり団体、行政組織（都市計画・商工・福祉等）が連携し、検討すべきとの意見があった。庁内の連携を強化していくと回答。 ・駅周辺の活性化・観光促進に向けて、観光案内所の活用促進（イベント利用、特産品の販売等）、SNS等を活用したPR促進（地域資源、イベント等）、くるくるバス等の活用等の提案があった。庁内で連携して検討すると回答。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。